

# 教育研修センター通信



Vol. 11

平成26年12月2日  
発行：教育研修センター

## 研修医からひとこと

研修医一年次 藤澤 興

藤枝での生活と研修が始まり早くも8ヶ月弱が経ちました。藤枝駅のホームを出て初めて北口前に降り立った時の期待と不安、実家に帰ってきたような懐かしさが今でもありありと思い出されます。

実に10年ぶりに都会の喧騒と無縁の地で過ごすことになりました。仕事面でも生活面でも、良くも悪くもマイペースな自分に心地よい環境だと感じています。数の少ない電車やバス、24時間営業しないコンビニ、驚くほど挙動の遅い電子カルテ端末（最近一新され、すっきり快適になってしまいましたが）、：などなど。藤枝ならではの時間の流れが確かにあります。

一方で、仕事の中ではのんびりばかりしてもいられない。してはいけない局面にも出くわしてきました。こういった機微を嗅ぎ分ける嗅覚を磨くことが今後の課題と考えております。藤枝での残り少ない研修期間がより充実したものになるよう努めて参りますので、今後何卒宜しくお願致します。



研修医一年次 布施 佑馬

シューマンの交響曲第3番は、「ライン」の標題で呼ばれることもあるが、ライン地方の風土を強く感じさせる作品である。特に第4楽章は彼がケルン大聖堂で枢機卿就任式に曲想を得たと言われている、その奇跡的なまでに美しい荘厳な響きは、作品全体を引き締め、終楽章（デュッセルドルフでのカーニバルを表したものと云われている）における最大級の幸福感へと導いてくれる。

この珠玉の名曲に初めて出逢って以来、ケルン大聖堂への強い憧れを抱いてきた。ケルン駅から出ると、目の前にゴシック様式の巨大な大聖堂がそびえ立っていた。旅の目的の一つは、ケルン大聖堂の塔へ登ることだ。533段をひたすら登る。頂上からはライン川と、河畔に広がるケルンの街並みを一望できるが、特に景色に興味はない。ただ登ることが目的だった。



## <12月予定>

- 1日 藤枝学術カンファランス
  - 5日 救急専門医レクチャー
  - 7日 地域防災訓練 (研修医トリアージ担当)
  - 15日 (平野、鈴木悠) 医療安全感染対策委員会
  - 18日 研修医症例発表会
  - 25日 (布施) 診療部会議
  - 26日 御用納め
  - 31日 外来開院日
- ※ポスター等で日時を確認し出席すること  
※研修医の代表が出席するものについては、出席後、全研修医に伝達すること



## 救急当直 症例レポート



12月より、救急症例レポート（入院を伴う）の記入をお願いします。厚生労働省の初期研修の到達目標においても経験症例を整理、把握しておくことが必要とされています。特に救急で診察した患者が入院に至った場合の経過について、翌日自ら病棟に出向き病状を記録することを慣行化するようお願いいたします。記入後は、救急当番の指導医に提出、チェックを受けてください。

## 特別講演

山梨大学大学院 循環器内科 久木山教授

11月28日（金）、山梨大学大学院内科学講座第二教室教授の久木山先生による特別講演「一心血管病予防の最近のトピックス」が開催されました。研修医をはじめ、指導医や看護師など50名を超える職員が聴講しました。当院の循環器内科は若手医師も多く、症例数も十分あり大変充実した環境下で初期・後期研修が実施されています。今後はさらに高齢化が進み、循環器系疾患の症例数は増加の一途を辿ることが予想されます。一人でも多くの研修医が循環器専門医を目指してほしいものです。

## 救急日当直の回数を均等に！

研修医の救急日当直回数の差が懸念されています。先日の臨床研修管理委員会において指摘され、今後は各人最低でも月3回以上従事するよう徹底してください。やむを得ない理由で、勤務交代した場合でもgive & takeの条件の下、勤務を交代してください。

救急日当直も大事な研修の一環であり、日当直の状況は研修終了の判断材料です。突出して回数が多い、又は少ないことのないように各人で再確認をお願いいたします。

## 各科研修医向け

### レクチャー開始

1月より研修医向けの各科レクチャーを開始予定です。

月1回、1〜2科の上級医の先生の協力をいただき各科のミニレクチャーを行います。現在一時的に常勤の救急医が不在であり、特に救急での対応についてレクチャーしていただきます。

研修医参加DUTYです。具体的日時は、研修医室ポスターでアナウンスします。

